

水道事業

2026/8/25

京田辺市上下水道事業経営審議会（第3回）

（水道ビジョンでの予測値と実績値との比較について）

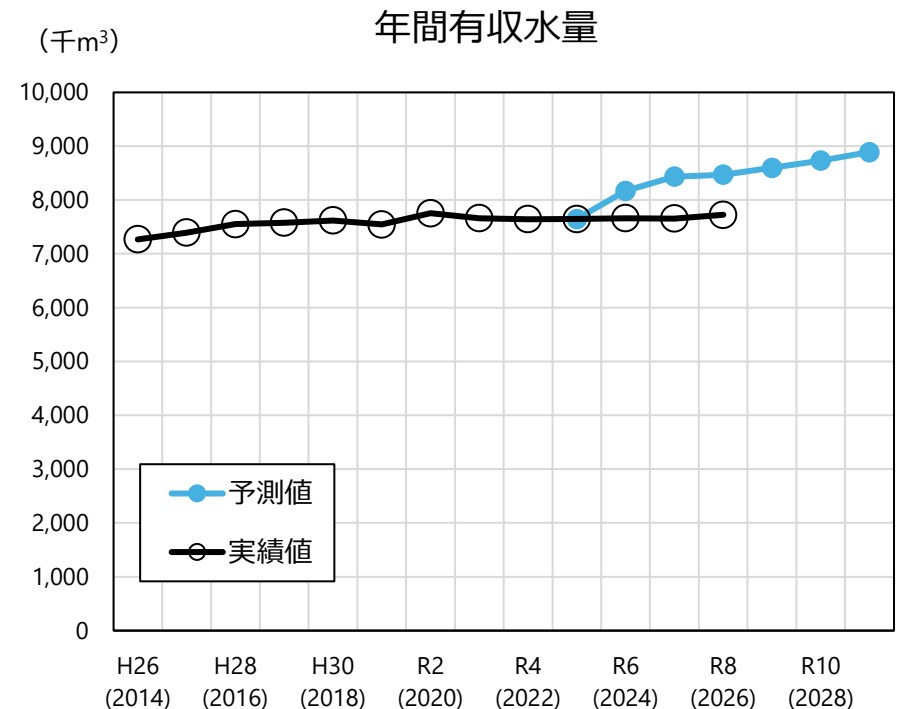
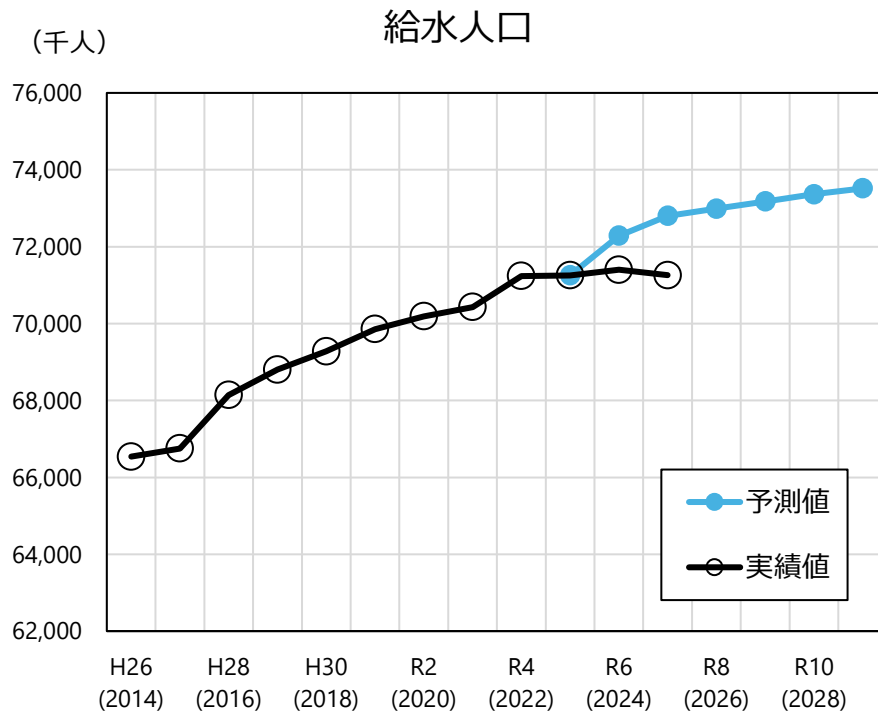


1. 人口・有収水量について
2. 収益的収支について
3. 資本的収支について
4. 資金残高等について
5. まとめ

1. 人口・有収水量について

水道事業

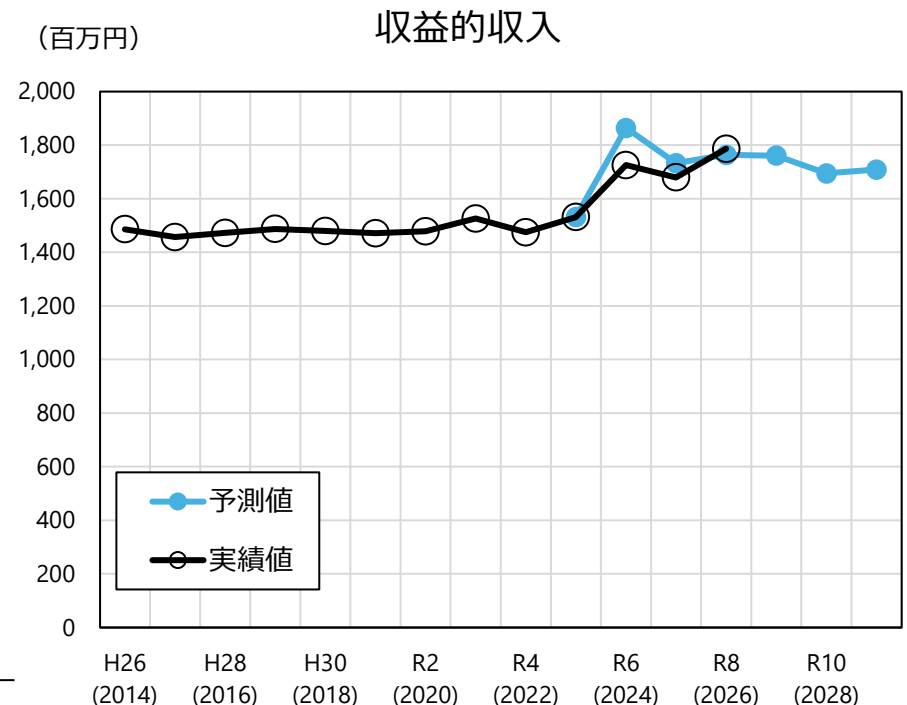
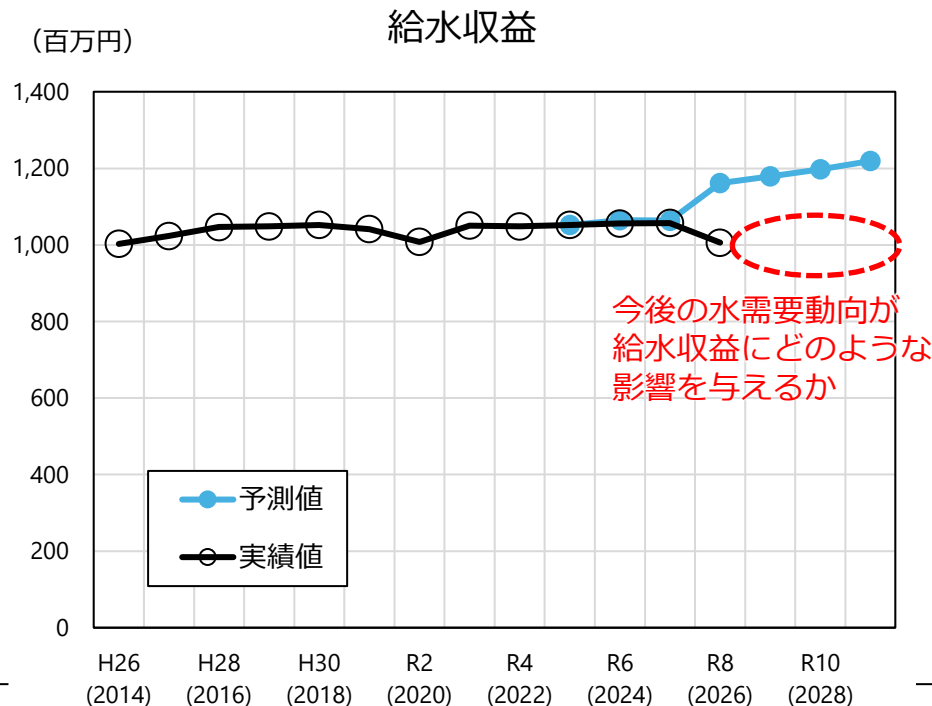
- 給水人口は、令和12年度まで増加する予測であったが、令和4年度以降横ばいとなり、令和7年度は前年度と比べて減少した。
- 年間有収水量は、令和2年度以降横ばいで推移している。田辺北地区土地区画整理事業等の開発計画が進展することで水量増加を見込んでいたが、令和6年度以降の実績は横ばいの状況（予測値をやや下回る）が続いている。



2. 収益的収支について

水道事業

- 給水収益は、年間有収水量の動きに連動するため、令和6～7年度は予測値をやや下回る値で推移している。ただし、令和8年度は物価高騰対策として基本料金の2か月減免を予定しており、予測値と比べて予算値が大幅に減少している。
- 収益的収入の合計では、令和6～7年度の決算値が予測値を下回る結果となっている。主な要因は受託工事収益や基金補助金・受水負担金が予測値を下回ったためである。なお、令和8年度は一般会計から減免に対する補てんを設けるため、予測値どおりの予算額となっている。



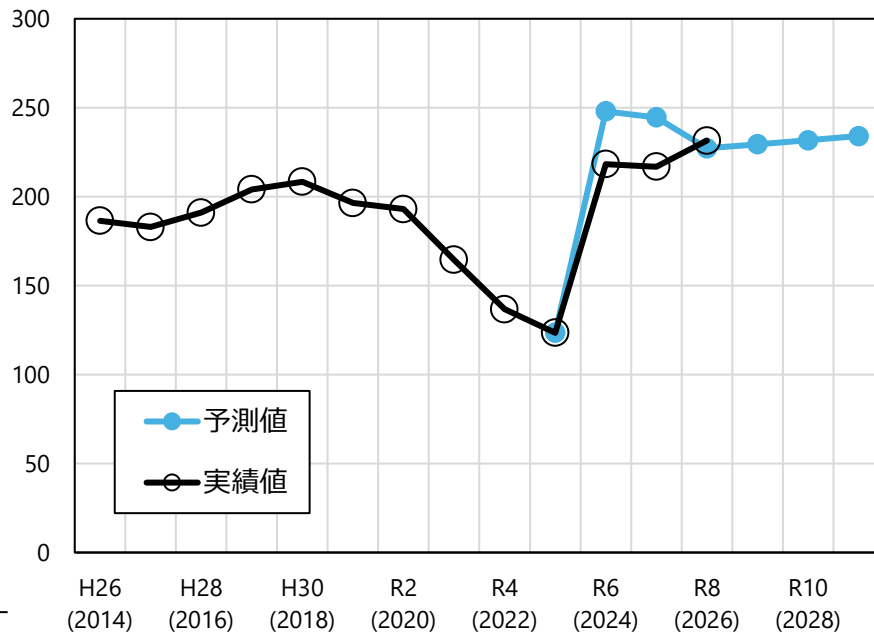
※実績値は、令和6年度までが決算値、令和7年度が決算見込案、令和8年度が予算値を示す。

2. 収益的収支について

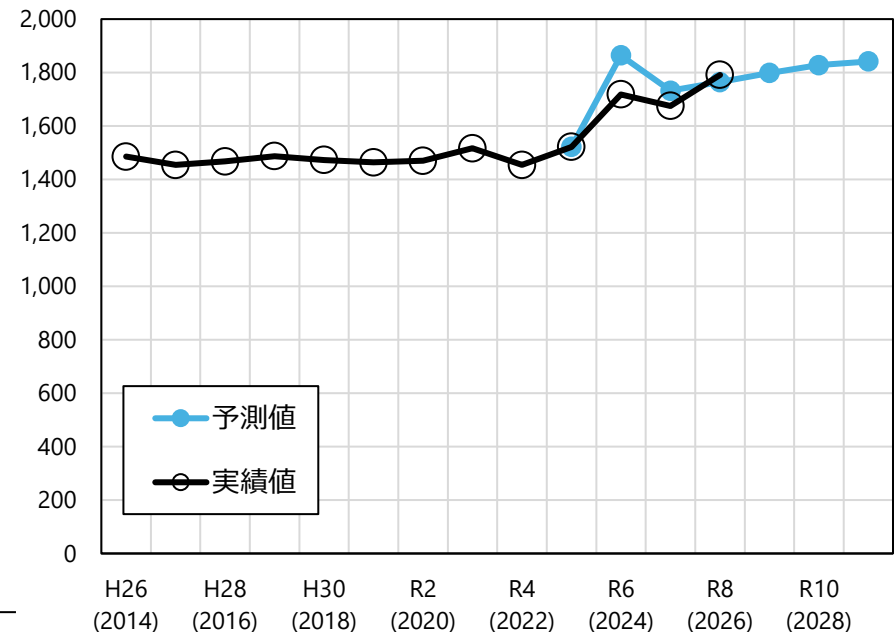
水道事業

- 収益的支出では、水道事業内での職員再配置（資本勘定職員→損益勘定職員）に伴って人件費等が令和6年度から増加する予測であったが、実際は費用が抑えられ、決算値は予測値を下回る結果となった。
- 人件費以外でも受託工事費等が令和6～7年度の予測値に対して決算値が下回る結果となり、合計としても令和6～7年度は予測値を下回る決算値となった。ただし、令和8年度は物価上昇等も影響して予測値と同程度になるものと考えている。

(百万円) 人件費（受託工事費分除く）



(百万円) 収益的支出

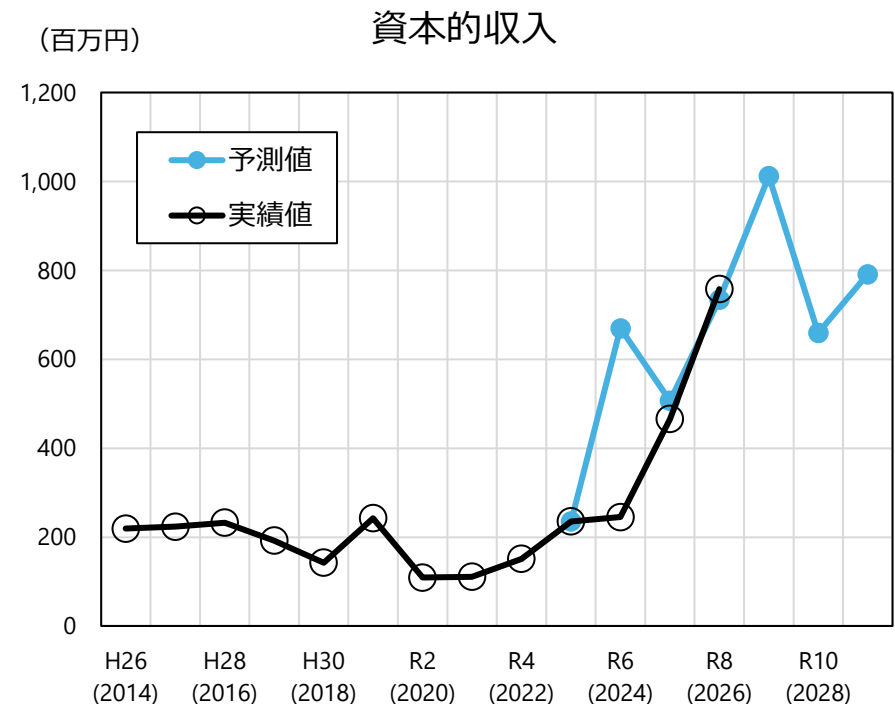
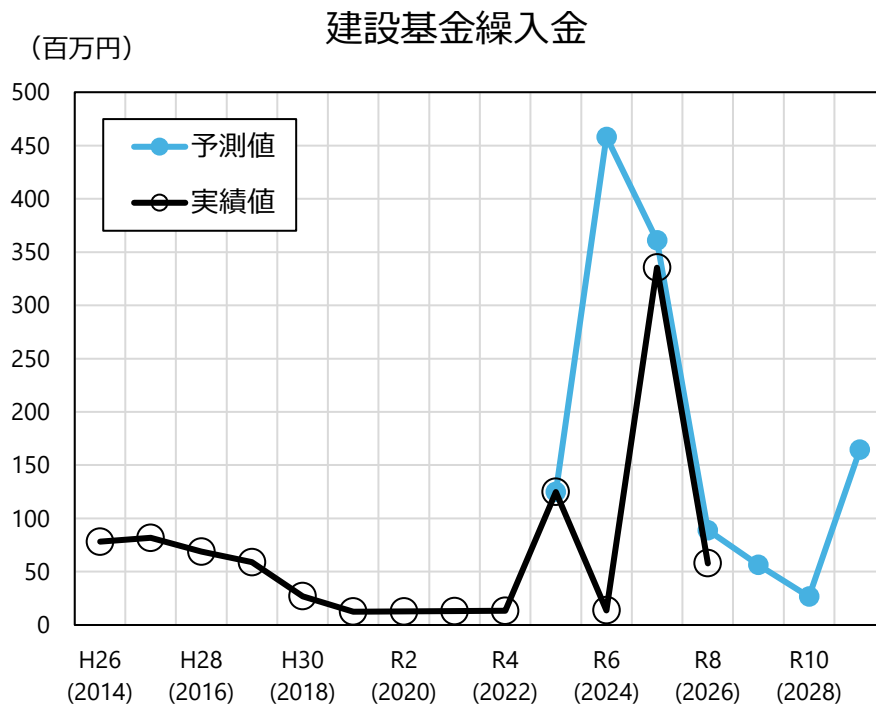


※実績値は、令和6年度までが決算値、令和7年度が決算見込案、令和8年度が予算値を示す。

3. 資本的収支について

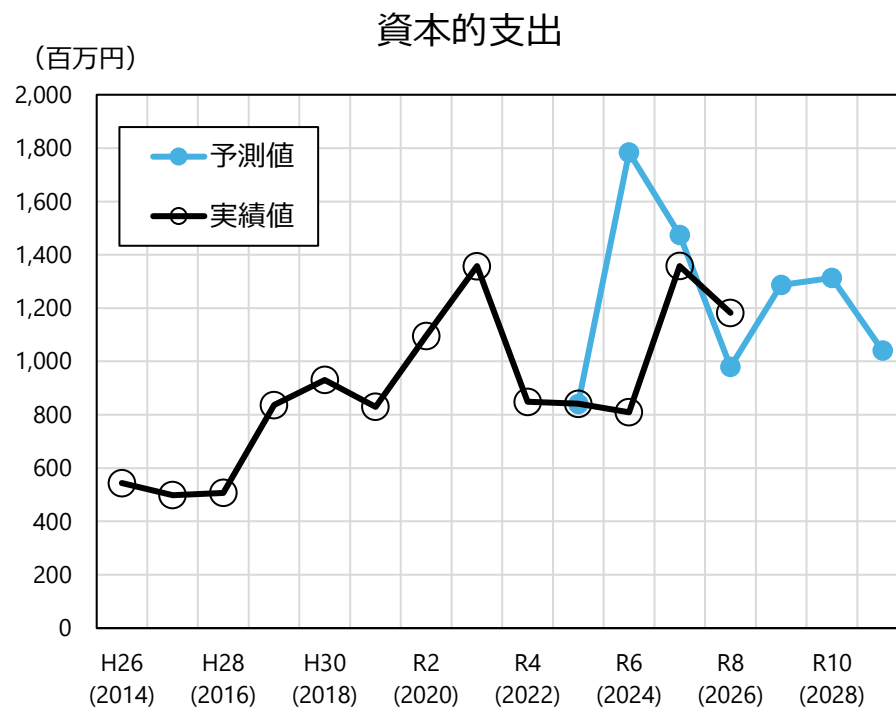
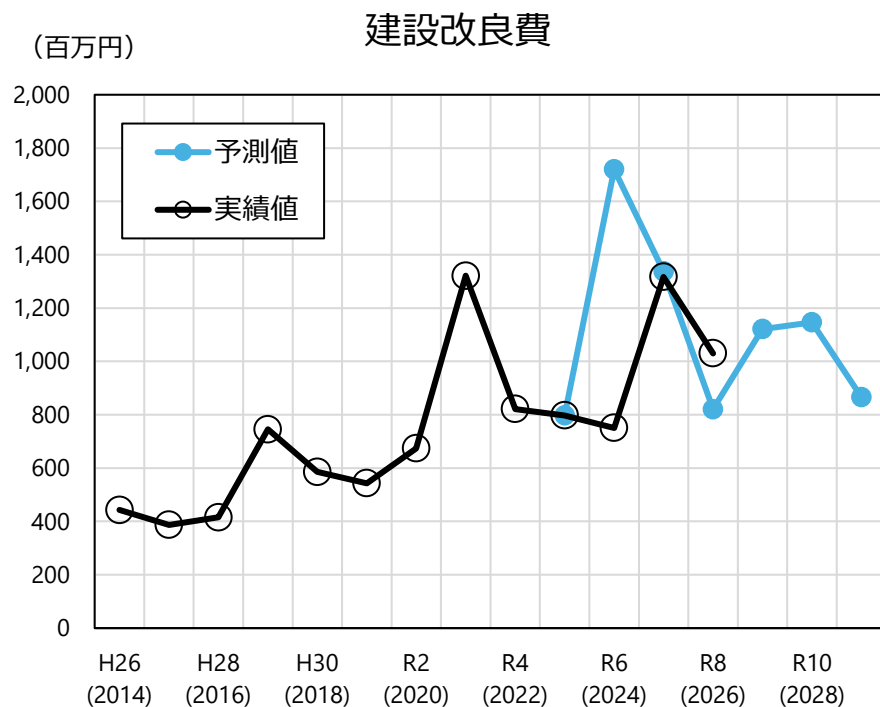
水道事業

- 令和6年度は、予測値よりも支出が減ったため、建設基金の取り崩し（建設基金繰入金）を抑えた結果、予測値と比べて決算値が4億円程度下回ったが、その後は予測値に近い値で決算値や予算値が推移している。
- このため、資本的収入の合計額も令和6年度に予測値を大幅に下回ったが、令和7年度以降は予測値と決算値・予算値との差は小さい。



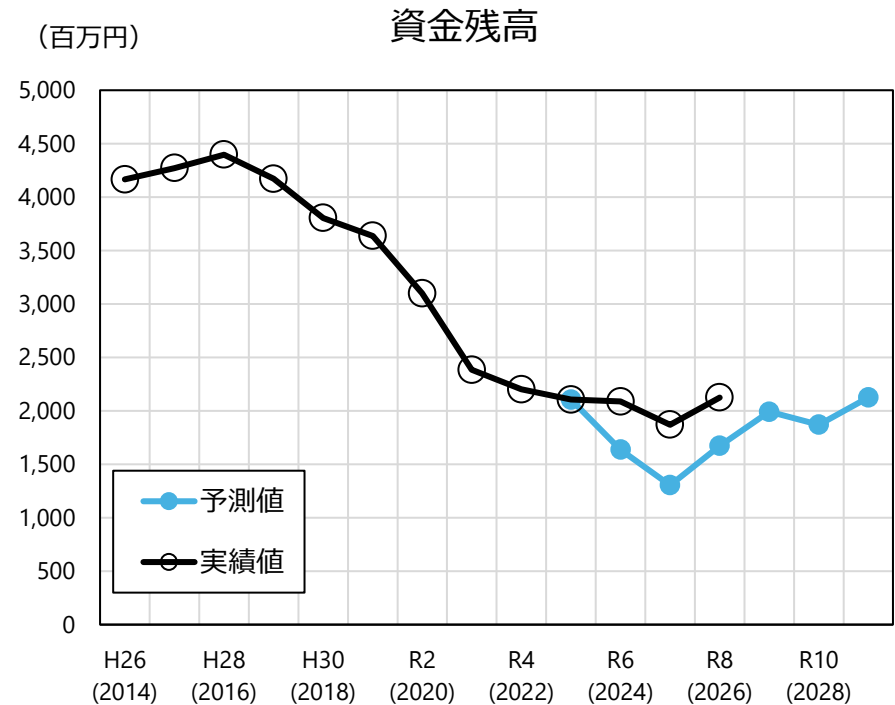
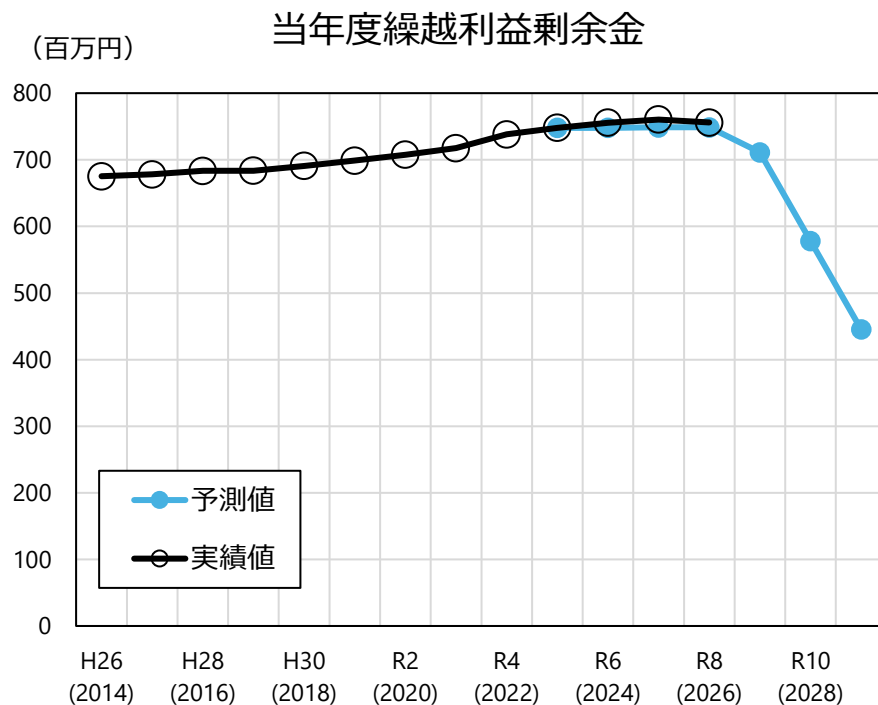
3. 資本的収支について

- 令和6年度は、建設改良費が予測値を大きく下回ったため、資本的支出の合計も大きく予測値を下回る決算値となった。しかし、令和7年度以降は予測値に近い値で決算値・予算値が推移している。



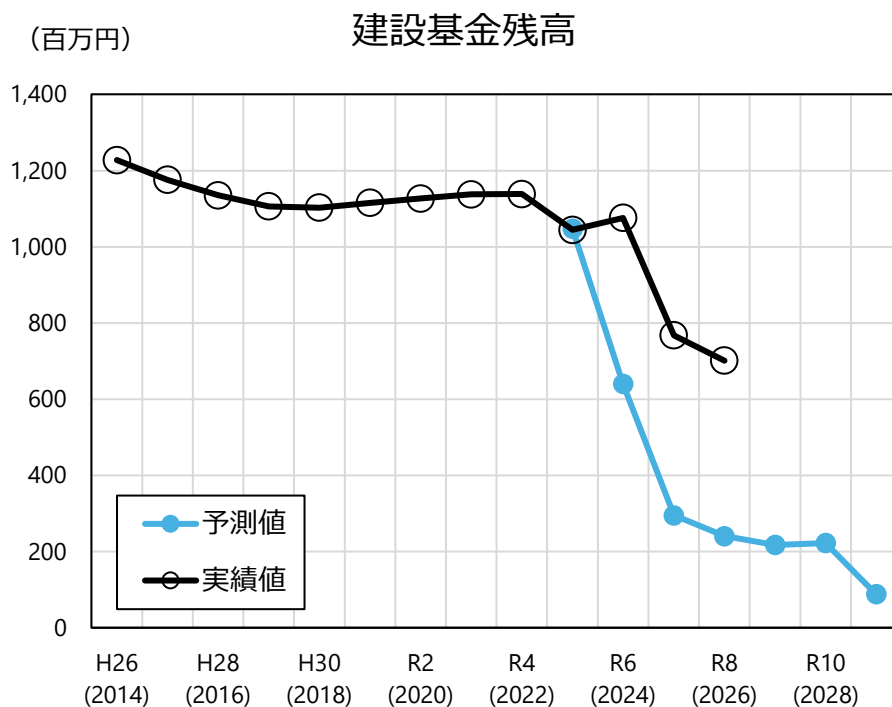
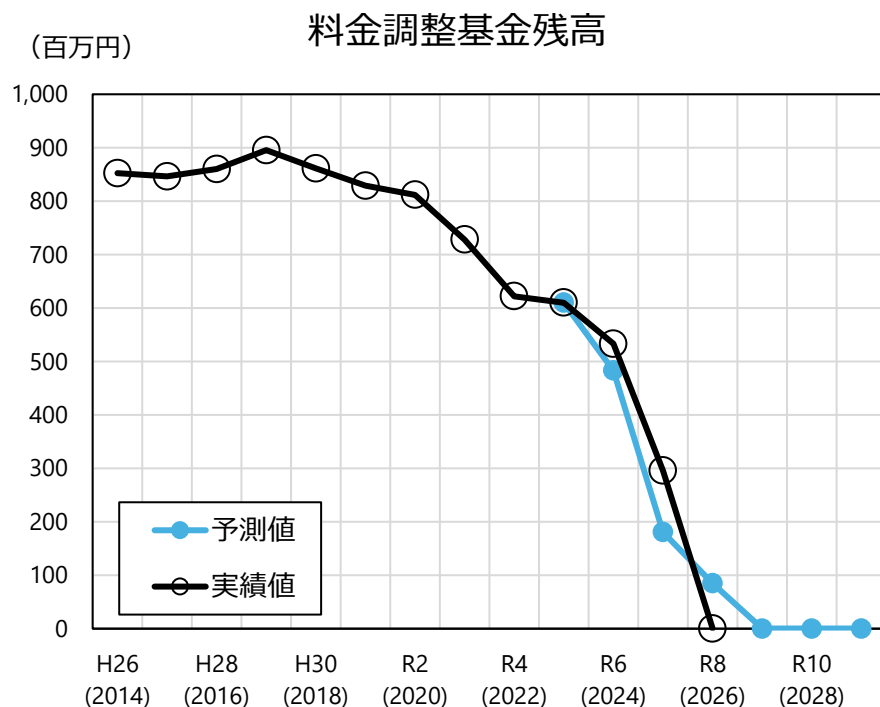
4. 資金残高等について

- 収益的収支で発生した利益の累積である当年度繰越利益剰余金は、予測値どおりの値で決算値・予算値が推移している。
- 減価償却費等も含めて内部留保している資金残高は、令和6年度の建設改良費が予測値よりも少なかったこともあり、上振れする結果となっている。



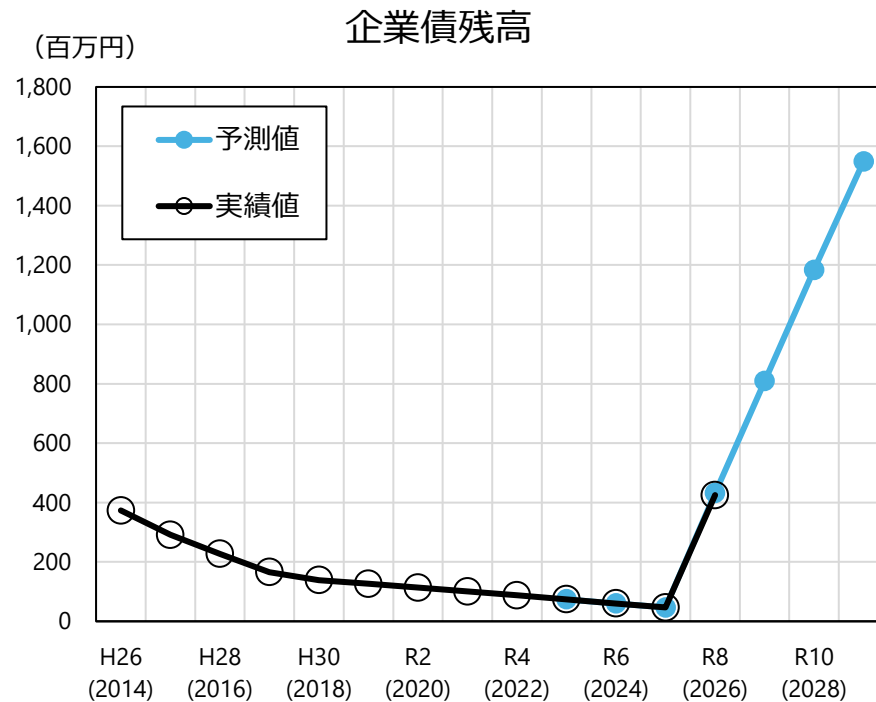
4. 資金残高等について

- 料金調整基金（収益的収入に充当）の残高は、予測値に近い決算値となっており、令和8年度予算でほぼ残高はなくなる予定である。
- 建設基金（資本的支出に充当）の残高は、令和6年度に予測値を下回る建設改良費となったため、予測値どおりの取り崩しとはならず、上振れする結果となっている。



4. 資金残高等について

- 企業債の新規借入れは、令和7年度まで行っていないため、予測値どおりの決算値となっている。
- 令和8年度は、予測値どおり新規企業債を借入れする予定である。



- 給水人口が伸び悩み、年間有収水量は横ばいである。このため、給水収益も横ばいとなっている。
- 収益的支出では、人件費等の増加が予測値を下回ったものの、物価上昇等も影響して増加傾向にある。収益的支出と収益的収入を均衡させるため、基金の取り崩しを進めており、料金調整基金は令和8年度でほぼ残高がなくなる。
- 資本的支出では、建設改良費の令和6年度決算値が予測値を下回った。このため、資本的収入として見込む予定であった建設基金の取り崩しが不要となり、令和7年度以降の建設基金残高が予測値よりも上振れする結果となった。
- 資金残高も同様に建設改良費の財源とする額が減少したため、予測値よりも上振れする結果となった。